

東松島市医師団リレートーク 第18回

～医療現場のドクターからのメッセージ～



今回のリレートークは、森さい生医院 おおまえてるひこ 大前輝彦院長からお話を伺いました。同院は、集団移転地の野蒜ヶ丘地区に新たに開院しました。

普段、大前院長が感じている医療機関との適切な付き合い方について、「迷子」をキーワードに事例を引き合いに分かりやすく紹介いただいています。



森さい生医院

おおまえてるひこ
大前輝彦院長

■診療科 消化器内科・内科・外科

受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30～12:00	○	○	○	○	○	○
14:00～18:00	○	○	○	○	○	△

休診日 土曜午後、日曜、祝日



東松島市野蒜ヶ丘3丁目28-3



大前先生からの
健康基礎クイズ

(○×で解答)

- Q1: 医師の診断に疑問があった場合、率直に尋ねた方がよい。
Q2: テレビなどの情報を精査にせず、親子のよくないところは医者に見せるべきだ。
Q3: ここ1か月間、身体に違和感を感じているが、我慢できないほどではないため病院を受診する必要はない。

正解者には抽選でeゆぶと利用券3枚セットを3人の方にプレゼントします。応募方法については質問受付欄を参照いただき「健康基礎クイズプレゼント係」と明記ください。
締め切りは10月31日(水)当日の消印有効です。

※健康基礎クイズには株式会社コスモスポーツ様から協賛をいただいています。今後も健康に関する重要情報をクイズ方式で出題し、知識の定着を目指します。また、協賛企業の募集は随時行っていますので、問い合わせは下記までお願いします。

「健康基礎クイズ」の答えを記入のうえ、はがき、ファックス、電子メールで下記に提出してください。

■住所 東松島市矢本字上河戸36-1
東松島市保健福祉部健康推進課宛
☎ 0225-82-1244
☑ kenko@city.higashi-matsushima.miyagi.jp

■宮城県民は人が好過ぎる!?

腹痛で受診したある患者さんとのやり取り。
患者「1週間前からおなか痛くて、5日前に病院で検査したけど良くならないんです」
僕「薬は何をもらいましたか」

患者「検査して何も異常がなくてもらってません」
僕「え、痛み良くなってたんですか」
患者「いえ、ずっと痛いんです」
僕「…」

このやり取りのおかしところ、お気づきでしょうか。患者の「痛み」という問題が解決していないのに、病院は検査に異常がないことで解決したとし、患者はどうすれば良いかわからない状態になっています。「迷子になってますね？」僕は患者さんに尋ねます。

このようなやり取りは5年前まで勤務していた東京でもありましたが、宮城に来て、やたら増えたように思います。東京の場合、患者から「異常ないの

僕「…」

にどうして痛いんですか」と突っ込まれます。

■病院に迷子にさせられているケース

我々医者は患者の訴えをもとに検査を組み立て、診断し、その診断をもとに治療を決めていきます。難しいのは患者の症状と検査結果を関連付ける事です。「異常無し」とされた患者は、その関連付けを省かれています。もし、車の調子が悪くて修理に出し、「異常無し」とされた車の調子が戻ってなければ、すぐ元の修理屋さんへ持っていきますよね?とところが、病院になるとそれをしませんが、患者さんは「先生に聞くのは怖い」「先生には聞きづらい」と言います。車よりよっぽど大事な自分の身体を預けているのに…。

■自分で迷子に陥っているケース
患者「先日背中が痛くて、様子をみていたんですが、テレビで胃が悪くて背中が痛くなることがあると見て、心配になってきました」
僕「…」

医療番組は、たくさんありますね。番組は視聴者に見てもらうために、タイトルも内容もそちらに偏重してしまいがちです。「背中が痛いのは背中が悪い」より、「背中が痛いのは実は…●●!!」とした方が見たくなりませんか。受診のきっかけになるのはありがたいのですが、場合によっては治療までの遠回りになってしまいます。また、前段のような対応で、答えの出ないまま彷徨うことになり、疾患によっては病状の深刻化にもつながりかねません。やはりまずは調子の良くないところは、病院で行って医者に診せるといのが基本です。

■患者と医者の間で意思疎通できず迷子になるケース
患者「最近眠れないんです」
医者「じゃ、眠剤(睡眠導入剤)出しときます」
患者「食事した後、胃が張って食べ物が消化されでないみたいなんです」
医者「じゃ、消化剤出しておきます」
ごく普通の病院での会話

話のように見えます。しかし前者ではこの患者の不眠の形態が一切評価されていません。僕が診察した高齢の方ですが、「夜は21時くらいに布団に入りますが、2時とか3時に目が覚め、それから朝まで寝られません」「この方は話を聞くと5時間は寝られています。睡眠時間は年齢を重ねることに短くなりまますから、不眠症でない可能性が高いです。抗精神薬や眠剤の過剰使用の問題はここに原因があると思います。そして後者ですが、患者の訴えは「食後の胃の膨満」です。胃は消化のごく一部しか担ってませんから、この場合消化剤より胃の蠕動賦活剤が有効であることが多いです。効果のない薬を「効かないなあ」と思いながら飲み続ける迷子の完成です。

■僕の診療方針について
僕はこの7月から野蒜ヶ丘にある「森さい生医院」で働いています。ここは石巻市の「森消化器内科外科」の分院として、森芳正先生顧問のもと、開

院しました。僕はこれまで消化器外科で緊急の現場にいたことが多く、余計先の見えない患者が気になります。救急の現場ではトリアージという言葉もあるように患者の水先案内人にならないといけない「患者との関係も「一期一会」であることが多く、患者一人ひとりの対峙は真剣勝負と考えています。幸いなことに患者さんから「話しやすい」と言われることが多く、僕の一番の長所だと自負しています。「費用対効果」という言葉がありますが、病院・医者として同じこと。遠慮はご法度！自分や大事な家族の命がかかっていますからね！ですから、どんな症状であっても、まずかかれる医院そして患者のニーズに「とん対応」できる医院を目指しておりますので、新参者でありますよろしくお願いたします。

ちなみに「一番の迷子は症状を感じながら病院にもかかっている、いやそのあなたです。」

健康推進課健康支援班
☎ 内線3101